

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520272

研究課題名(和文) 越境を超えて - ネットワーク理論に基づく20世紀合衆国文学史の再構築

研究課題名(英文) Beyond Transnational: Rethinking Literary History of 20th Century America as a Cultural Network

研究代表者

宮本 陽一郎 (MIYAMOTO, Yoichiro)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：30143340

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクト研究成果は、『アトミック・メロドラマー冷戦アメリカのドラマトゥルギー』(彩流社、2016年4月)として刊行した。同書はネットワーク文化論の立場から冷戦期アメリカを論じるものであり、合衆国文化のみならず、アメリカ文化の冷戦期における海外輸出、そして日本やアメリカにおける情動としての「アメリカ」を論じる。

日本の戦争記録画がたどった戦後の運命を解明したことも本研究の重要な成果の一つである。日本の戦争記録画を戦後直ちに収集した米従軍画家たちは、冷戦期には反核反戦の美術家として迫害を受ける。戦争記録画の運命は、大戦と冷戦のあいだの極めて短いあいだに流通した芸術観のネットワークを物語る。

研究成果の概要(英文)：The outcome of this research project is published as Atomic Melodrama: Dramaturgies of Cold War America (Tokyo: Sairyu-sha, 2016). It discusses "America" not as a nation/state but as a transnational network of discourses, emotions, and affect. In particular, it focuses on melodramatic inventions of Cold War America, and on the ways in which "America" as affect circulated outside the U.S. during the Cold War era. Analyses of such film genres as Western films, SF horror films, and family melodramas are integral parts of the argument.

This research project uncovers the submerged history of Japanese War Paintings during WWII. The paintings were collected immediately after WWII by American War Painters, who later became fiercely anti-nuclear, anti-war during the McCarthy era. The brief period of time between the end of WWII and the beginning of Cold War, as well as the shared view of art among war painters across national boundaries, preserved those paintings.

研究分野：アメリカ文学

 キーワード：アメリカ文学 アメリカ研究 冷戦 ネットワーク トランスナショナル アメリカ映画 戦争記録画  
メロドラマ

## 1. 研究開始当初の背景

グローバル化が進むとともに、それまでの文学史研究が暗黙のうちに継承していた「国民文学」というパラダイムは、当然のことながら見直しを迫られるようになった。そうした枠組みに収まりきれない、母国を離れて活動した作家の「越境性」に注目した研究が、それまでの国家単位の文学史に見直しを迫った。

しかしこうした「越境性」に注目することは、それに先立つ国家の「境界性」を前提とした上で、初めて成り立つものである。この前提そのものを見直しを迫る先駆的研究として、Paul Gilroy の *The Black Atlantic* (1993) が挙げられる。決定的に重要なことは、Gilroy が国家や大陸ではなく大西洋を研究対象に定めたことである。アフリカ系アメリカ人文学の生成の起源は、人種でも国家でもなく、トランスアトランティックな文化ネットワークに見出されるのである。

グローバル文化に関する近年の理論の展開は、本研究に言うまでもなく指針を与えるものである。Arjun Appadurai の *Modernity At Large* (1996) は、メディアやイデオロギーのグローバル・フローは、人・物・財の移動に伴って起こるのではなく、それとは異なる地景--メディアスケープとイデオスケーブ--を構成する独立した現象として捉える。Marta Savigliano の *Tango and the Political Economy of Passion* (1996) は、タンゴをグローバルな感性のネットワークとして捉え直すものである。研究代表者による「アメリカのアル・デコ即興、機械、摩天楼」(2005年)は、以上のような理論を背景としつつ、1925年パリで開催されたいわゆる「アル・デコ展」に始まるとされるアル・デコ様式のグローバルな流布を、人の動きに媒介されたスタイルの拡散ではなく、むしろ人の動きに先立ち、人の動きを促すコンデュイットとして位置づけ、トランスアトランティックなネットワークのなかに布置する視座を提起した。

## 2. 研究の目的

以上のような背景に基づき、本研究はネットワーク文学論の理論と方法を確立するとともに、これに基づき、これまで20世紀合衆国文学史研究の中核をなしてきた以下のような事象について再解釈を行う。

### (1) ネットワークとしての自然主義

合衆国における自然主義文学は、フランスで19世紀半ばに確立された自然主義文学の影響、そしてそのローカル化として論じられてきた。本研究は「影響」というパラダイムを全面的に排して、同時代的な科学知識とドラマトゥルギーのネットワークのなかで生

起した文学としてドライサー、ノリス、ギルマン、クレインらのテキストを分析する。ここでは合衆国の文学・文化は、ヨーロッパの影響の受け手ではなく、トランスアトランティックなネットワークの重要なターミナルとして捉えられる。

### (2) 「失われた世代」とハーレム・ルネッサンス

きわめて奇妙なことに、「失われた世代」の文学とハーレム・ルネッサンスの文学は、まったく同時代的な文学運動であるにもかかわらず、これまで別個の文脈で研究されてきた。本研究のなかでは、この二つの文学運動は、同じひとつのネットワーク上に生じた不可分の現象として論じる。アル・デコ様式およびジャズのグローバルな流通は、こうしたネットワークの別の層における表れである。

### (3) コンドウウィットしての社会主義

1930年代の反ファシズム人民戦線と、それが各国の文学に与えた影響は、すでにマイケル・デニングをはじめ多くの研究者によって十二分に論じられている。本研究が論じようとするトランスナショナルなネットワークが、すでに研究主題として確立された一例といえる。しかし、本研究は反ファシズム人民戦線を、それに先立つおよそ半世紀にわたって醸成された、社会主義をコンドウウィット(導体)とするネットワークの帰結として捉え直す。とりわけアフリカ系アメリカ人の知識人が、社会主義をコンドウウィットしてトランスナショナルなネットワークを構築していったプロセスに注目する。

### (4) パリの「アメリカ」

1948-50年に合衆国で、アメリカ研究およびアメリカ文学研究のパラダイムが確立されるのに先立ち、1945-46年のパリでは、「アメリカ」の小説と映画が熱狂的に歓迎されるのみならず、サルトルやクロード＝エドモンド・マニーラによる先駆的な20世紀アメリカ文学論が展開されるとともに、合衆国でのアメリカ映画研究をおよそ30年先取りしたフィルム・ノワール論が確立される。合衆国におけるアメリカ研究・アメリカ文学研究に先立って存在した、「アメリカ」をめぐる文化的ネットワークを解明する。

### (5) ソフト・パワーとしての冷戦期アメリカ文化

近年のアメリカ研究に絶大な影響を与えたジョゼフ・ナイのソフト・パワー論に蓋然性を認めるのであれば、アメリカ文学・アメリカ文化のグローバルな流通は、アメリカのハードパワーによってもたらされた結果ではなく、それと平行して、あるいはそれに先立って形成されたと考えなければならない。本研究では、文学・文化のなかでソフト・パ

ワーとしての「アメリカ」が醸成されていったプロセスを、双方向的ネットワークのなかで検証する。

### 3. 研究の方法

本研究が目的とする文化的ネットワークの解明のためには、基幹となる文学テキストの分析に加えて、以下の四つを軸とする研究方法をとった。

(1) マニュエル・カステル、イマニュエル・ウォラーステイン、アルジュン・アパジュライ、ポール・ギルロイらの理論を整合し、ネットワーク文学論の理論と方法を確立する。

(2) 作家・知識人の手紙・メモワールのアーカイブ調査を通じた、人的交流・海外渡航・読書を通じたネットワーク生成のプロセスの実証的研究を行う。

(3) 美術・建築・デザイン・ファッション・写真などの学際的研究を通じた、感性のネットワークの解明を行う。

(4) アメリカ文学研究のパラダイムの成立過程についての、歴史的考察。

### 4. 研究成果

本プロジェクトに基づく研究を集大成して、単著『アトミック・メロドラマ---冷戦アメリカのドラマトゥルギー』を彩流社より2016年4月に刊行した。同書は、ネットワーク文化論の立場から冷戦期アメリカを論じるものであり、アメリカ合衆国の文化のみならず、アメリカ文化の冷戦期における海外輸出、日本やヨーロッパによる受容も視野に入れ、情動のネットワークとしての「アメリカ」を解明する。また同書で論じた「冷戦」は、「鉄のカーテン」演説からベルリンの壁の崩壊に至る狭義の冷戦ではなく、失われた世代の政治参加のなかで醸成され、現在の合衆国社会のなかでも存続する文化政治としての冷戦である。このように「アメリカ」と「冷戦」をとらえ直すことは、研究目的に掲げた(1)から(5)の項目と、研究方法に掲げた(1)から(4)のアプローチをすべて盛り込み統合することにより可能となった。

同書全体を貫く中心的な主題となったメロドラマの想像力は、研究の目的(5)「ソフト・パワーとして冷戦期アメリカ文化」から派生した知見である。これは(1)「ネットワークとしての自然主義」を包括し、さらに植民地時代の虜囚文学にまで遡り「アメリカ」を分節化するアフェクトとして位置づけることができたことは、大きな成果と考えている。

まだ書評等はないが、ソーシャル・ネットワーク上では「『アトミック・メロドラマ』」には、1950年代冷戦期文化論とパラレルに、アメリカの人文科学系大学教育・研究はWWII～冷戦期にどのように形成され、現在どのような危機的状況に直面していて、そこから日本にいるわれわれは何を学べばよいのか、と

いうシリアスな問いが一貫してある」「あまりにも勉強になりすぎるくらいに網羅的で、あまりにも依拠したくなるレファレンスなので、他の人や学生に薦めたくないくらいに、すごい」など、ポジティブなレスポンスが見られる。

これに先立ち、2014年にケント大学出版局（アメリカ）より刊行された論文集 *Hemingway, Cuba, and Cuban Works* に寄稿した研究代表者の論文 “Papa and Fidel: Cold War, Cuba, and Two Interpretive Communities” は、ヘミングウェイ晩年の代表作『老人と海』を、合衆国文学としてではなくトランスナショナルな文化ネットワークのなかで解読することを試みるものである。*Hemingway Review* 誌（アメリカ）の書評で、書評者 Hilary Justice 氏は、この論文について同書中で「最も充実した批評的視座」を展開したものであり、巻頭論文に位置付けるべきであったと評価している。また *Island Studies* 誌（カナダ）にも、同書の書評が掲載され、本研究が島国研究（Island Studies）という新たな研究分野とも連携しているものであることが明らかになった。

第二次世界大戦期の日米における戦争記録画、そしてこれをめぐる言説のネットワークについての研究は、当初の計画を超えた規模で展開するとともに、想定外の困難にもぶつかった。アメリカ人従軍画家たちによる日本の戦争記録が収集活動について、米国公文書館で新たな資料を発見することができ、これまで美術史研究のなかで欠落していた視座を補うことができた。これは美術史研究/アメリカ研究を越えた意義を持つと考え、その成果を世田谷美術館において講演し、同美術館報告書に掲載するとともに、さらにこれを発展させた論考を『アトミック・メロドラマ』第4章として発表した。十分な成果と考えるが、しかしアメリカ従軍画家たちの活動について解明するための鍵となる書簡・メモランダムが、合衆国陸軍軍事史センターからワシントン DC 郊外のフォート・ベルヴォワ基地内の倉庫に移管してしまい、網羅的な調査が事実上不可能になった。これについては、今後さらに調査を継続して行きたい。またここで得られる知見は、本プロジェクトのスコープを越えて、日本戦後史を再考するうえで大きな意味を持つと考えるので、その成果を社会に還元していきたい。

研究の目的に掲げた諸項目の研究成果は、ほぼ単著に盛り込むことができたが、それに加えて、とりわけ1900年代から1930年代にいたる合衆国文学史をネットワーク理論によりとらえ直すためには、アナキズムの系譜について分析することが不可欠であることが明らかになった。これが本プロジェクトで個別のネットワークとして考察した自然主義、黒人文学、失われた世代の文学、社会主義をつなぎ合わせる要素として機能している。このような観点からアメリカ文学史のな

かにアナキズムを位置づけた研究は管見の限りなく、学術的価値の高い研究テーマとなる。これに関する成果は草稿段階にある。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

宮本陽一郎「戦争記録画の失われた歴史を求めて」『世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館 展覧会・講座室活動報告書/平成26年度』(2015年)、pp.14-25。査読無。

宮本陽一郎「アメリカン・メロドラマ----ドラマトゥルギーとしての冷戦」『言語社会』第9号(2015年)、pp.120-140。査読有。

宮本陽一郎「アメリカン・メロドラマ」『アメリカ文学評論』第23巻(2012年)、pp.48-52。査読有。

[学会発表](計1件)

宮本陽一郎「YFZ牧場の決闘 -- 冷戦と強制モノガミー制度」筑波アメリカ文学会、2012年3月24日、筑波大学東京キャンパス(東京都文京区)。

[図書](計2件)

宮本陽一郎『アトミック・メロドラマ----冷戦アメリカのドラマトゥルギー』東京、彩流社、2016年。380pp.

Yoichiro Miyamoto " 'Papa' and Fidel: Cold War, Cuba, and Two Interpretive Communities," in Larry Grimes and Bickford Sylvester, eds, *Hemingway, Cuba, and the Cuban Works.* Kent, OH: Kent UP, 2014. pp. 180-193.

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

宮本 陽一郎 (MIYAMOTO, Yoichiro)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：30143340